

研究主題 SDGsの学習を通して、考えを伝える力を高めよう  
 ～「わかりやすく伝える」ための指導の仕方を工夫して～

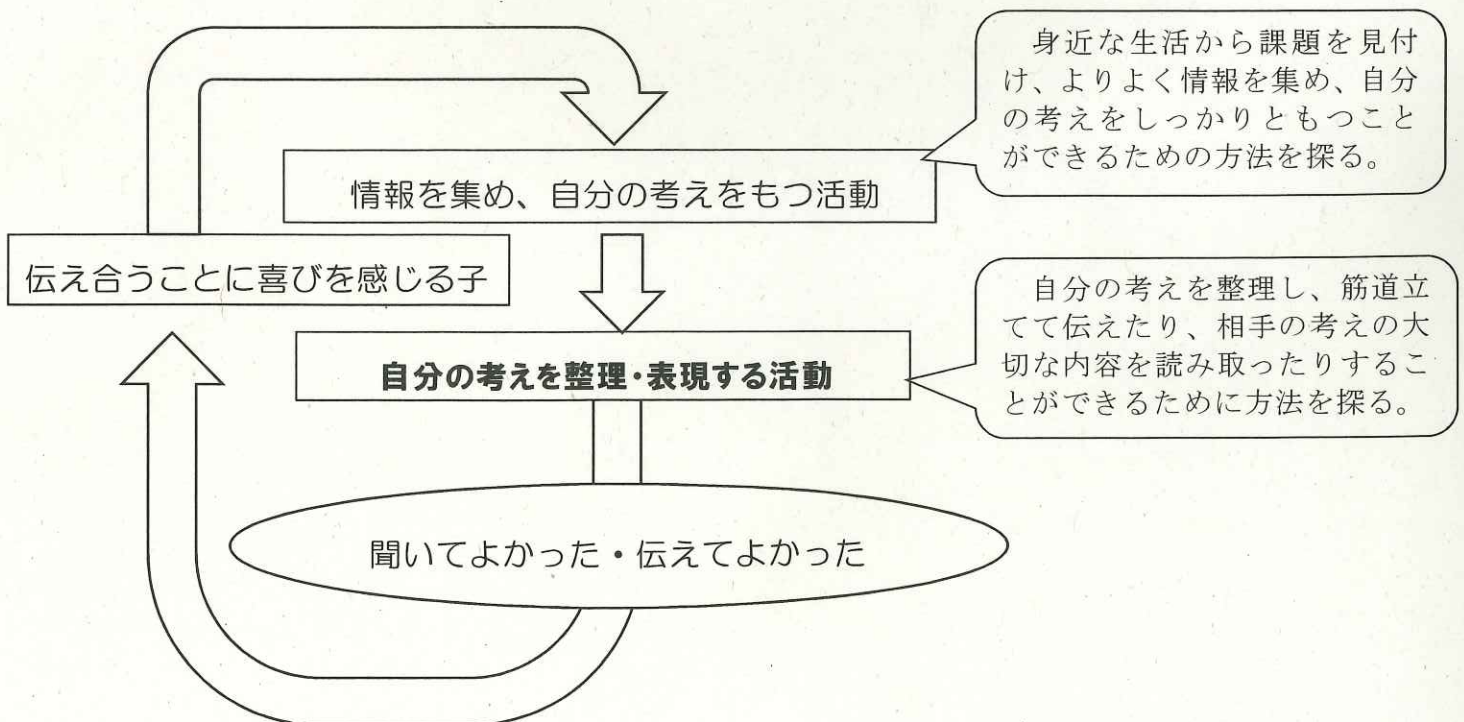
1 研究主題設定の理由

昨今の急速な高度情報化社会への移行、少子高齢化・核家族化の進行などの社会状況の変化に伴う中、子ども達同士による切磋琢磨する機会が減少し、人とうまく関わることができず、より良い人間関係を築くことができない子どもが増えてきている。本校でもコミュニケーション能力の不足からくる子ども同士のトラブルや人とかかわり方がよく分からないため友達ができないなどの問題を抱える子どもが増えている。

「伝え合うことに喜びを感じる子」を育てるためには、子どもの発達段階を考慮して、言語活動を充実することが大切になってくる。「言語」は知的活動やコミュニケーション、感性・情緒の基盤である。子ども達が自分の考えをもって整理し、それを説明し合って互いの考えを聞き合い、考えを共有し、違いを受け入れ、それを基に考えを深め、互いの考えのよさを認め合うことを通して、自分のよさを実感し、人とかかわる力、コミュニケーション能力へと発展していくと考えられる。自分の考えを「もつ→整理・表現・共有」というステップを踏むことが重要になってくる。昨年度は、「考えをもつ力を高めよう～SDGsを知ろう～」という研究主題を設定して実践を進めた。SDGsをテーマにしたことで、本やタブレットを活用したり、いろいろな教科に応用したりして、一人一人が自分ごととして考え、自分の考えをもつことができた。また、リーダーチャートやピラミッドチャートなどのシンキングツールの活用や話し合い活動の工夫により、自分の考えをよりよくすることができるようになってきた。本年度は、昨年度と同様にSDGsの学習を通して、自分の考えをわかりやすく伝えるための指導の仕方を工夫して、「考えを伝える力」を育てていきたい。

2 目指す子ども像

昨年度の実践を通して、自分の考えをもつことは多くの子どもたちができた。しかし、より伝わりやすい言葉や表現方法を選択したり、自分の考えを端的に文章で表現したり、考えの理由や事例をはっきりと示したりすることは十分にできなかった。そこで、今年度は、自分の考えを整理し、筋道立てて伝えたり、相手の考えの大切な内容を読み取ったりすることができる子どもたちを育てることが重要であると考え、本研究を通して、「自分の考えをわかりやすく伝えることができた」と実感できる子どもたちを目指す。



### 3 手立ての方向性と目標

低学年：自分の考えを正しく伝えることができる

「話型や定型文などを活用して、自分の考えを正しく伝えることができる。」（文章など）

中学年：自分の考えを相手（親や友達）や目的に応じて、明確に伝えることができる

「理由や事例を挙げながら、伝えたいことを明確にして伝えることができる。」（文章、新聞、ポスターなど）

高学年：自分の考えを相手（親や友達、他学年）や目的に応じて、効果的に伝えることができる

「図や表、グラフなどを引用したり、事実や感想、意見などを区別したりして、伝えたいことを効果的に伝えることができる。」（文章、新聞、ポスター、プレゼンなど）

### 4 実践の方法

- 部会を低学年部会（1・2年生担任、  
）と中学年部会（3・4年生担任、  
）高学年部会（5・6年生担任、  
）に分ける。
- 学年・部会でおおよそ半数になるように1学期、2学期に分けて授業を行う
- 授業日を設定する場合は、事前に各部会、教務と相談し、できるだけ多くの先生が授業を参観できるように調整する。同じ部会の先生は、参観できるとよい。
- 指導案(略案程度)の作成にあたっては、随時部会を開いて検討し、2日前には配布する。

### 5 検証方法

- 授業実践 … 授業での課題に取り組む姿や子ども同士の学び合いの姿

### 6 研究組織

校長・教頭 — 努力点推進委員会 — 努力点全体会

低学年部会  
中学年部会  
高学年部会